「障がい者福祉の体験」

担当教員名　朝比奈　茂　　宮川　路子

コース概要

日程	2018 年 8 月 4 日～ 17 日
場所	群馬県安中市「ゆきわりそう」の山荘内にて
参加人数	24 名

〈内容〉

本フィールドスタディは、学部創設以来、現在まで行われてきたロングラン・プログラムであり、私たち人間について考えることの出来るプログラムの一つです。豊島区南長崎に所在する「ゆきわりそうグループ（http://www.yukiwari.org/top.htm)」の理念に共感し、互いに理解しあいながらここまで歩んできました。

内容は、普段、都会の中で生活している障がい者の方々が、避暑を兼ねて自然豊かな群馬県安中市の山荘で過ごす際の引率や日常生活を支援する活動です。参加学生は専門的に障がい者福祉を学んでいませんが、ゆきわりそうの職員の指導のもと実施してきました。同じ人間でありながらあまりにも違う生き方をしている障がい者の方々と、寝食をともにする「合宿形式」で行うことより、人間について深く考えることができるプログラムであると、これまで参加した OB,OG の方々が述べております。普段私たちは、自分の意志によって行動を決定し、自由に日常生活をおくることができます。これは当たり前のようですが、そうでない人が世の中にいることを、この FS を通じて身体全体で感じ得るプログラムであると期待しています。

〈実施時期及び実施プログラム〉

体験実習は、群馬県安中市内にある「ゆきわりそう」の施設で２泊３日の合宿形式で行われます。事前学習でそれぞれのプログラムの内容を確認し、その後自ら参加するプログラムを一つ決定します。

以下、プログラムと対象者を記載します。

コースのねらい

障害者と合宿を通じて寝食および行動をともにすることで、人間としての生き方を実感する。また福祉活動における仕事内容、それに携わっている方々と意見交換をすることで、現在の障がい者福祉環境について理解を深める。

山荘付近、ひまわり畑の散策

食事の介助をする学生

・ソフトクリーム：知的障害児・者
・クレヨン　　：知的障害児・者
・絵画　　：知的障害児・者
・マラソン１　　：知的障害児・者
・マラソン２　　：知的障害児・者
・ハーフマラソン：知的障害児・者
・和太鼓　　：知的障害児・者
　　肢体不自由児・者
・ゴロ野球　　：知的障害児・者
　　肢体不自由児・者
・遊び塾　　：知的障害児

マラソン前の準備体操

〈事前および事後学習〉

社会福祉法人地球郷より担当者（姥山剛代表）を講師に招き、準備→体験→総括における一連の流れについて、説明を受けます。事前学習では、組織の基軸となっている「ゆきわりそうグループ」の活動内容や、障害者の身体的および精神的特徴について、DVD などの視聴覚機器を用いて全体像の理解を深めます。学生は事前学習の内容をもとに各自プログラムを決定し、後日「ゆきわりそう」での研修を受けた後に、当日を迎えることとなります。

体験実習を終えた後に、「ゆきわりそう」から担当者（姥山代表）招き、事後学習（報告会）を行います。学生はいくつかのグループに分かれ、各々が行った活動を発表します（情報の共有化）。グループ内で共有化をはかった後に、「FS を通じて学んだこと、考えたこと、これから行うこと」をテーマにグループごと発表を行います。

参加者全員での昼食の様子

〈参加学生の実施報告書から：一部抜粋〉

このフィールドスタディーで、学んだことの一つに、知的障がい者に対しての印象が大きく変わったということです。自分で大抵の生活は出来ますし、声や言葉と言ったコミュニケーションを取る手段や能力を、たまたま無く生まれただけで、私たちと同じように理解し行動できると知りました。それと同時にそう思っていなかった私も偏見を持っていた１人なのだと気づきました。障害の程度も症状も一人ひとり異なり様々です。薬の量や生活の補助もみんな同じではありません。しかし、ゆきわりそうのような支援施設に通い、少しでも自分でやろうとする姿、私たちでも辛いぐらいのランニングを走り切る姿、役割を見つけて行動する姿を見ていたら、私たちと何が違うのか分からなくなるほどでした。幼稚な言葉ですが、本当にすごいです。利用者の方々もその家族もそして職員の方も。最後にミーティングで自分の感想を言った時に私は少し感情が高まってしまいました。施設の職員の方がここまで大変な責任の大きい仕事を人の為にやってあげる素晴らしさ、又利用者一人ひとりの人生や努力に触れることが出来たこと、うまく表現出来ませんが全てに脱帽するレベルで胸に刺さる体験をさせて頂けたことに感謝の気持ちでいっぱいでした。